

下野牧の跡をたずねて

江戸時代、幕府は下総国などに野馬を育てる牧を設けていました。東葉高速線の沿線にも、北習志野駅から船橋日大前駅のあたりにかけて「下野牧(しもまき)」と呼ばれる牧が広がっていました。下野牧は船橋市中央部から習志野市北部を経て千葉市西端に至る細長い牧で、広大な原野を野馬が自由に駆け巡っていたといえます。今回のウォークは、東葉高速線沿線に残る下野牧の痕跡をたどりながら、約8kmのコースを歩きます。



享保年間の下野牧の範囲(■部分)



①子者清水
享保7(1722)年の小倉下野牧図に「コハ清水ト云出水有」と記された泉がありました。



②野馬除土手
牧のまわりには野馬を除けるための高い土手などがありました。ここに残る土手は長さが約75mあります。



③御林
幕府所有の御林が多くあったところで、野馬が冬の寒さや夏の暑さを避けたところです。

※この写真は今回のコース沿いで撮影したものではありません。



④旧近藤家長屋門
上飯山高村の名主だった近藤家の門です。村は下野牧に接しており、幕末の近藤四郎左衛門は「牧士(もくし)」でした。



東葉高速線開業15周年記念
東葉健康ウォーク
 ~下野牧の跡をたずねて~

